

“伴走者”としての国語教師 ～授業づくりに「学びナビ」の活用を～

大妻女子大学教授 かばやまとしろう
権山敏郎



中教審答申（2021）は、「令和の日本型学校教育」で目指す姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を掲げています。この答申では、これらの学びの実現に向けて、教職員に対して次のような意識改革を求めています。

教師が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている（下線は筆者）。

ここに示される、「伴走」とはどのような立場に立つことなのでしょう。教師は学習者の横に居並ぶ関係、つまり対象となる世界を生徒と一緒に見て、対話することにほかならないでしょう。

国語科における教師と学習者は、同じテキスト（文章・事象等）を共有し、それを読解・解釈する立場としては、本来的には対等な関係にあると考えます。ただ、教師は教室の中の最も有能な先行研究者として、学習者の学びの行く先を見通し、あるべき方向へ導きうる立場になければなりません。ゆえに教師は、テキストが保有する特性や価値、意味世界との対話（教材・事象の研究）を深めることは必須です。同時に学習者の過去の生活や学習経験に配慮し、他の学習者との相互作用を促進することが必要です。さらに、教室の物的・人的学習環境の整備、協働性や支持性の醸成に意を用いることが大切です。こうした学びの文脈の中で、「伴走」する教師には適時適切な直接的な指導（教師の出）が重要な意味をもつことは自明です（下図）。

教師は先導する立場に立つことに傾斜しすぎず、かつ最後尾の学習者に同行するだけでもない、「伴走」という概念を再考したいものです。

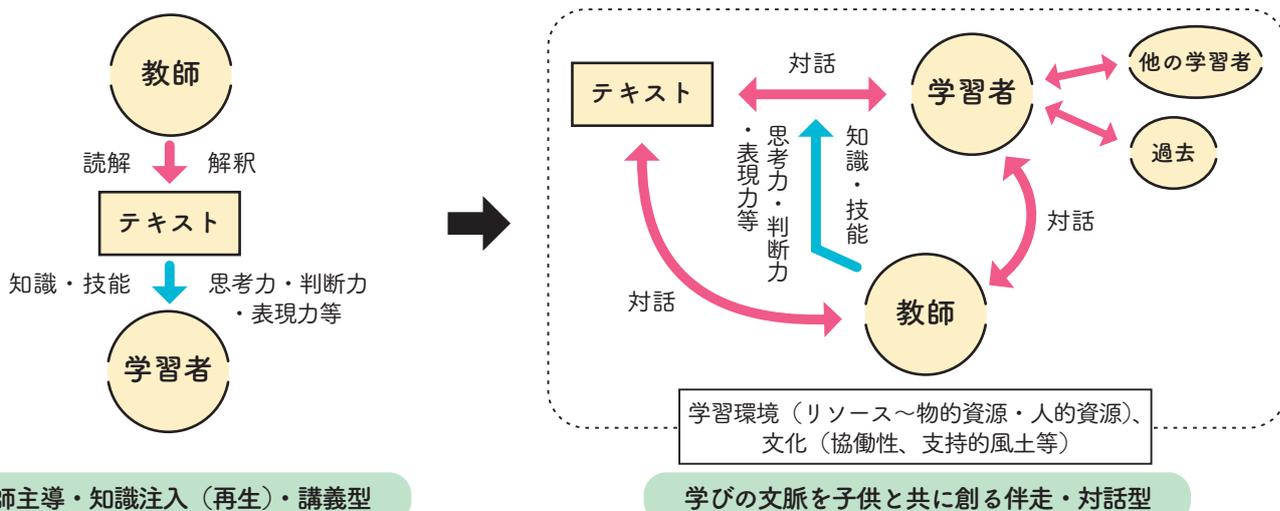


図 教師の教えと学習者の学びの構造

『「真正の学習」における教室の関係構造』、石井英真『現代アメリカにおける学力形成論の展開——スタンダードに基づくカリキュラムの設計』（東信堂、2011、183頁）所収をもとにして、筆者が国語科編として改作

このような「伴走」という概念の捉えのもと、教育出版の中学校国語教科書に「学びナビ」が掲載されています。国

語授業づくりに、「学びナビ」をどのように活用すればよいか、次に『少年の日の思い出』を例に解説を加えます。

生徒たちの“初読の感想”のリアルなやり取りは、
こんな感じかもしれません。

『少年の日の思い出』

学びナビ

「語り方にご注意！ 一人称—



客(=僕)は、チョウチョ集めにはまっていった結末が、これでは空しいね。小さい頃って、みんな何かの収集に興味をもつのかな？ 私は、可愛いぬいぐるみに興味をもっていたけど、この客(僕)の好奇心ってすごいね。



小学校の一時期、シール集めにはまったことがあるけど、お金がかかるので、親から止められたような記憶があるな。客(僕)の熱中する好奇心はほんとに半端じゃない感じがする。最後にこの客(僕)がチョウチョを一つ一つ指でこなごなに押し潰してしまう場面、ぼくにはそんな経験はないけど、そのときの屈辱感(けいぶつ)はなんとなくわかるような気がするなあ。やはり、あまりにも軽蔑(けいべつ)されると、ムカッとなったり、イライラしたりするし……。



エーメールって、上から目線で、なんとなく感じが悪いイメージをもってしまふ。マウントをとった口調や表情が目につかぶから、「あいつの喉笛(のどびし)に飛びかかるところだった」という客(僕)の苛立(いらだ)つ気持ちはわかるような気がする。むかつくって感じ……。



やっぱり盗みという行為までいたるか否かだけど、作者ヘッセは、「人間とは、取り返しのつかないことをしてしまう」といった、教訓(きょうくん)のようなものを伝えたかったのかな。教科書に載せることによって、全国の中学生に“盗みをするとう一生後悔(ごうかい)するぞ”って感じかも。



この小説って、客(僕)が私に話したんだよね。だから、「少年の日の思い出」って題名(だいめい)だけど、その後、客(僕)は年を重ねる中で、盗みという悪(あく)とどう向き合(むか)っていったのかな。きっと今でも不愉快(ふげき)な思い出は消えないだろうけど。

少年の日の思い出

語りと構成

「語り深めよう」

現在 過去 現在といったように、過去が現在には含まれていない構成を「額縁構造」といったり「入れ子型」といったりします。

「少年の日の思い出」は、「客」と「私」が書斎で話している現在と、「客」の少年時代が語られる過去があり、「額縁構造」に近い構成になっているもの、現在に戻ることはありません。現在は「私」が語り、過去は「客」(＝僕)が語ったと捉えがちですが、そうではなく、「友人はその間に次のように語った」とあることから、語り直したと読むことができます。回想場面は「僕」の視点から語られているため、「エーメール」の考えや気持ちは直接描かれていません。この点にも留意して作品を読んでみましょう。

「こが大事」「僕」が「エーメール」に対して抱いている思いについて考えよう。

物語

作者

語り手

僕

私

現在

過去

現在

「少年の日の思い出」の場合

「額縁構造」

現在 過去 現在

241

『少年の日の思い出』 p240-241

【学びナビの活用】

本教材の冒頭に掲載されている「学びナビ」は、「語り方にご注意！ 一人称—」というタイトルで、「読みの扉を開く」と「こう読み深めよう(語りと構成)」の2つのコーナーに分かれています。従来、教科書教材の初読については、ある意味まっさらな状態から作品世界に入っていくことを大切にしてきた感もあります。余計な予備知識を与えず、感じるままの読書を大切にすることは否定しません。ただ、国語科教育とは意図的な指導でなければなりません。とりわけ、文学という虚構の世界に入るためには、その時代背景や作品の舞台などを知ることは、読みの一定のフレームをもつことにつながります。また、系統化された教材の配列に注目し、過去の読み(読み方)をメタ認知することも重要です。コンピテンシーベースを重視する現在の国語科学習指導においては、能力をシャープに捉えていくことが大切です。それ

が、指導事項の精選、そして厳選につながっていきます。今回は、「語り」にフォーカスするのです。「語り」の視点を切り口として、指導事項が示す内容を網羅的に扱うようにしていきます。

見開きの「学びナビ」の取扱いについては、これから出会う作品の扉に立つ生徒たちの視座に立ち、これまでに、どんな作品(教科書教材)を、どのように読んできたかという系統性の意識を高め、そこでどのような能力を獲得してきたかを、学習用語などに注目して整理するようにしましょう。それから、これから読んでいく作品の題名をめぐって展開を予想するなどして、読みへの期待感を高めましょう。そして、「学びナビ」というものが、作品を深く読むことができる、“国語眼鏡”となることを伝え、書かれている内容を解説してください。こうした作品の扉を開ける際の丁寧な誘いが、きっと生徒主体の学びにつながっていくことでしょう。

「」をどのように活用するか？

予想される生徒たちの“初発の感想”をもとに、教師間で授業を構想している様子です。



生徒たちは、おそらく、この小説を教訓的に受け止めるのではないかと思います。「後悔先に立たず」でしょうか。やはり、「一度起こした過ちは、もう償うことはできない」といった結果論や精神論に陥るような気がします。私は、客（僕）がチョウチョに熱中する姿に共感するような読みも大切だと思います。また、犯した罪を反省し、謝罪した行為については十分掘り下げて考えさせたいなと思います。



私は、「人間の弱さや脆さ」といった人間の本质のようなものに迫りたいと思います。中心人物である客（僕）の心情に焦点を当てるとともに、冷淡なエーミールの内面を掘り下げていきたいです。エーミールは、生徒たちにはおそらく悪いイメージをもたれるかもしれませんが、エーミールの言動は決して稀なものではないのかもしれませんが、思春期の揺れ動く心情の変化について叙述を大切にしながら読みを深めていこうと考えています。



この小説では、「なぜ『客（僕）』は、最後にチョウチョを指でこなごなに押し潰してしまったのだろうか」という課題が中心となるかと思っています。生徒たちの中には、「もうチョウチョを見るのも嫌になったから」、「罪を償うために、チョウチョ集めをやめることを決心したから」といった浅い読みがありそうです。客（僕）とエーミールのチョウチョ集めに対する思いをそれぞれの境遇にも目を向けながら、丁寧に2人の人物像に迫っていくことで最後の場面を深く読むことができるようにしたいです。



最後の場面ですが、「客（僕）」の話で終わってしまいます。この小説は額縁構造（入れ子型）になっていますが、「現在」→「過去」で終わり、「現在」に戻っていないので、完全な額縁構造ではありません。それが作品の特性でもあります。また、語り手が存在し、冒頭は「私」で始まり、「客（僕）」へと変わっていきます。最後まで読み進め、劇的な結末の余韻に浸ることになる生徒たちは、ここで何を感じ、考えるかがこの作品を読む醍醐味ですね。



確かに、そうですね。「この最後の場面を読んで、みなさんはどのようなことを考えてみたいですか？」と問いかけるといいかもしれません。おそらく、先ほどのような「なぜ、押し潰したのか」はもとより、「話を聞き終わった『私』は、『客（僕）』に対して何を語ったのだろうか」、あるいは「『私』が小説にしたこの話を『客（僕）』が聞いたら（読んだら）、どのような思いをもつだろうか」、ひいては、「この小説と自分たちの今、そしてこれからの生き方について考えてみたい」など、多様な問いが生徒たちから生まれるかもしれません。



そうした問いを生徒たちが個々に選択して自分なりの考えをつくり、グループに分かれて話し合う活動を最後に用意するといいかもしれません。グループで話題になったことをシェアできる時間も設定したいものです。現在、「個別最適化学び」・「協働的な学び」が求められているので、とても適したまとめになるような気がします。



そうしましたら、学習の導入をどのようにしていきましょうか。『少年の日の思い出』の冒頭に掲載されている「学びナビ」を見ると、「語り方にご注意！ 一人称」とあります。この部分を、いつ、どのように扱うか、検討していきましょう。

“伴走者”としての国語教師には、自身の読みを出発点とし、研究的な視点から教材の可能性を発掘していくことが求められます。同時に、読みの主体である生徒の側に立ち、生徒たちとともに授業を創っていく視点も持ち合わせて授業を創っていくことが大切になります。

学び 語り方にご注意！

一人称

読み方の扉を開く

物語や小説の語り方は、二つのタイプに分けられます。一つは、登場人物の外から語るもので、これを三人称といいますが、もう一つは、「私」「僕」として登場人物の内から語るもので、これを一人称といいますが、

一学期に学んだ『桜娘』で一人称と三人称を比べてみましょう。

A「何やってるの？」

白石さんが尋ねると、倉橋君は振り返ってこう言った。

「桜娘の旅立ちを見守って。」

B「何やってるの？」

声をかけられ振り返ると、クラスメイトの白石さんが立っていた。

「桜娘の旅立ちを見守って。」

Aでは、「白石さん」「倉橋君」という登場人物の外から語っているのが三人称の視点となり、Bでは、「僕」という登場人物の内から語られているので一人称の視点になります。

Aでは、語り手が「白石さん」と「倉橋君」の両方が見える視点から語っています。「僕」の視点から語る場合、相手の「白石さん」が何を思い、どう感じているかはわからないことになり、AとBは同じことを語っていますが、三人称と一人称では語り方が異なり、作品世界の見え方も変わってくるのです。

語り手が、どの視点から、どこことや登場人物をどのように語るかを、文学作品を読むうえで重要なこととなります。人称・視点を意識しながら読むことで、読み方を身につけていきましょう。

次の①②は一人称か三人称か確かめよう

- ①自分はそれから庭へ下りて、真珠貝を穴を掘った。真珠貝は大きな清らかな緑の鏡に似ていた。(夏目漱石「夢十夜」)
- ②夜だけは、どこまでもどこまでも、まっすぐに空へのぼって行きました。(宮沢賢治「よたかのはな」)

令和3年度版『伝え合う言葉 中学国語』「学びナビ」系統表

	1年生	2年生	3年生
文学的文章	桜蝶 …P18 学び 物語と小説って何？ ——文学作品の特徴——	タオル …P20 学び 象徴表現を読む	私 …P30 学び 〈私〉という記号
	オツベルと象 …P146 学び 語っているのは誰？ ——作者と語り手——	夏の葬列 …P172 学び 小説の時間にご用心 ——時間と構成——	故郷 …P178 学び 「私」が語る〈私〉 ——一人称——
	少年の日の思い出 …P240 学び 語り方にご注意！ ——人称——	走れメロス …P246 学び 変化する語り ——語り手の位置——	立ってくる春／なぜ物語が必要なのか …P22 学び 独自の見方考え方・固有の経験
説明的文章	自分の脳を知っていますか …P32 学び 文章の構成を捉える	日本の花火の楽しみ／水の山 富士山 …P54 学び 観点を明確にして読み比べる	A Iは哲学できるか …P74 学び 批判的に読みながら主張に迫る
	森には魔法つかいがある …P86 学び 論理の展開を捉える	紙の建築 …P104 学び 具体例から主張を捉える	async ——同期しないこと／ 問いかける言葉 …P90 学び 主張のよりどころを捉える
	子どもの権利 …P170 学び 説明の仕方に着目する	ガイアの知性 …P194 学び 主張につながる推論を捉える	
	言葉がつなぐ世界遺産 …P200 学び 問いと答え、事実と意見	学ぶ力 …P224 学び 述べ方から主張を捉える	
詩	河童と蛙 …P140 学び オノマトペ	虹の足 …P14 学び 比喩・象徴	初恋 …P174 学び 文体（文語体・口語体）・リズム
		豚 …P242 学び 想像・イメージ	
話すこと・聞くこと	内容を整理して説明する …P47 学び 関係づける	説得力のある提案をする …P61 学び 計画する	構成を考えて主張をまとめる …P57 学び 組み立てる
	調べた内容を聞く …P179 学び 予想する	観点を明確にして伝える …P81 学び 課題を設定する	表現の工夫を評価してスピーチをする …P201 学び 限定する
	発言を結びつけて話し合う …P223 学び 総括する	相違点を明確にして聞く …P207 学び 比較する	意見を共有しながら話し合う …P235 学び 一般化する
		よりよい結論を導く討論をする …P233 学び 推論する	
書くこと	資料から得た根拠をもとに意見文を書く …P41 学び 比較する	新聞の投書を書く …P37 学び 課題を設定する	具体例をもとに説明文を書く …P81 学び 一般化する
	材料を整理して案内文を書く …P71 学び 把握・理解する	構成を明確にして手紙を書く …P65 学び 組み立てる	説得力のある批評文を書く …P103 学び 比較・関係づける
	根拠を明確にして意見文を書く …P99 学び 比較・関係づける	根拠をもとに意見文を書く …P115 学び 推論する	自己PR文を書く …P197 学び 検証する
	読み手を意識して報告文を整える …P219 学び 評価する		情報をまとめて作品集を作る …P239 学び まとめる
メディアと表現	写真で「事実」を表現する …P64 学び 写真で編集する世界	脚本で動きを説明する …P86 学び セリふと書きで表す	新聞が伝える情報を考える …P64 学び 紙面の特性と情報の構成
	広告の情報を考える …P102 学び 広告の表現とその効果	映像作品の表現を考える …P186 学び 絵コンテで映像を具体化する	ニュースで情報を編集する …P108 学び 必要な情報を選ぶ
	漫画で「物語」を表現する …P226 学び 漫画独自の表現方法を捉える		

中学国語通信 みちしるべ Vol.5 2024（令和6）年3月発行

教育出版株式会社 編集局 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館

TEL：03-5579-6278（代表）